

【女川町】

校務 DX 計画

女川町は、施設一体型小中一貫教育学校の本格的スタートと同時に、校務支援システムを導入しました。1人1台端末導入後は、児童用デジタル教科書や AI 型学習教材等を活用し、学習におけるデジタル化を進めてきました。また、クラウドサービスを活用し、欠席連絡の対応にかかる負担の軽減も図っています。

デジタル化・オンライン化を進めてはいますが、学校現場においては、依然として紙ベースの資料が多く見られるのも事実です。そのため、校務の円滑化・効率化の観点から、各種デジタル化及びペーパーレス化を積極的に進めていく必要があります。

「GIGAスクール構想の下での校務の情報化に関する専門家会議」の提言や「GIGAスクール構想の下での校務 DX 化チェックリスト」による自己点検の結果等を踏まえつつ、具体的な取組を次のとおり定めます。

1 ゼロトラスト環境の構築

(1) 校務系及び学習系ネットワークの統合

現在、女川町では、教育ネットワークを、児童生徒の個人情報等を取り扱う「校務系」、児童生徒が教育活動で利用する「学習系」の2つに分離し、インターネット経由で児童生徒の個人情報にアクセスできない構成となっています。教職員の働きやすさの向上と教育活動の高度化を目指し、ゼロトラストセキュリティの考え方にに基づき、アクセス制御によるセキュリティ対策を十分講じた上で、校務系・学習系ネットワークの統合について調査研究を進めます。

(2) 校務支援システムのクラウド化

現在利用している校務支援システムは、グループウェア・スケジュール管理・授業管理・成績管理・教育評価機能・保健関係など、幅広い業務で活用可能です。しかし、学習系で生成されつつある膨大なデータと、校務支援システムに蓄積された校務系データとの連携が困難であったり、クラウドベースとなっておらず、自宅や出張先での校務処理ができなかったりするなどの課題があります。

教職員の負担軽減やコミュニケーションの迅速化・活発化できる環境を構築するため、校務支援システムのクラウド化について、全国の先進自治体の動向を調査します。そして、校務支援システムの次期更新時（令和8年）のクラウド化を目指し、学校現場の教員と情報共有しながら、仕様の作成及びシステム設計、調達事務等を進めます。

2 ペーパーレスの推進

これまで、女川町では、校内の職員会議等において、校務系サーバ等に保存した電子データを閲覧し共有することで、ペーパーレスを進めてきました。しかし、保護者配布文書については、依然として紙ベースで配布している現状があります。印刷にかかる経費と時間の削減のため、これまで以上にペ

ーパースを進めていきます。また、国・県・市町村から発出される文書について、電子決裁が可能となるシステムについて研究を進めます。

3 FAX及び押印の見直し

令和5年12月に文部科学省より発出された「GIGA スクール構想の下での校務 DX 化チェックリスト」に基づく自己点検結果の報告によると、保護者・外部とのやりとりで押印・署名が必要な書類があり、クラウド環境を活用した校務 DX を大きく阻害していることが指摘されています。

女川町においても、紙ベースでの資料配布や押印の見直しを図っているところですが、各種行政機関及び学校とやりとりのある事業者においては、紙ベースや FAX での資料配布・提出を求めるケースも見受けられます。緊急連絡や教育ネットワークの不具合時、FAX のほうが電子メール等より効率的な場合などを除き、FAX 及び押印の原則廃止に向けて、各種行政機関及び学校とやりとりのある事業者に対して、町教育委員会から慣行の見直しを依頼するなど、継続的に働きかけを行います。